



ID: 1336

科目名	建築施工【26年度生用】			コード			
英語表記							
担当教員名	高村 龍夫			年度	平成26年度		
基準年次	3年次	開講期	後期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式	対面	履修形態	選択		
授業概要							
建築施工とは、建築主の企画と構想を基本として、設計者がまとめた設計図書による計画を、施工者は設計監理者の指導のもとに、設計図書に従って工事、工程計画等を立案し、責任施工をして、建物を完成させる。この計画から工事施工一連の全般を施工という。							
到達目標							
(1) 建築生産システムを理解する為に、施工業者を選定する方法及び請負契約その他建築関連法規、資格制度などの基本的知識を学ぶ。(2) 主要構造の躯体工事を中心に、仕上げ工事などを含めて施工管理システムの全般的な概要を理解し学習する。(3) 建築物の建設現場を見学し建築物の生産工程の実態・現実を理解し施工の意味を学習する。							
授業計画							
第1回	建設業の業態と現状及び建築士に関する資格制度の意義						
第2回	建築基準法等の法令に関する規制や適用の考え方						
第3回	施工管理に関する品質・安全・工程・財務・技術のマネージメント						
第4回	施工計画・管理計画						
第5回	地盤調査の方法と試験、測量機器						
第6回	敷地の地盤、中表面以下に関する支持力と沈下に関する基本工事						
第7回	鉄筋の特性、構造図・加工・組立・配筋検査						
第8回	材料の特性、設計図書、施工計画、型枠工事						
第9回	生コン、輸送、検査、打ち込み、締め固め、養生、仕上げ						
第10回	鉄骨の特性、施工計画、鉄骨の製作要領、工作図、原寸検査						
第11回	木工事一般と伝統的木造建築						
第12回	防水・屋根・左官・タイル・石工事等						
第13回	建具・金属・塗装・設備工事等						
第14回	現場を見学することにより、生産工程の実態・現実を理解する						
第15回	現場を見学することにより、生産工程の実態・現実を理解する						
評価方法と基準			評価項目と割合(%)				
期末試験50%、平常点を50%として評価する。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				50		50	
授業外学習			テキスト、教材				
本講義は、科目内容の性格上、具体的な建築工事の状況の理解には、日常の行動において建設現場などの観察や関連する資料などの写真・ビデオなどを通覧しておくことが望ましい。			西島一夫・蔦谷博著「図解建築施工」学芸出版社				
参考書			受講生へのメッセージ				
〈建築のテキスト〉「図解 建築施工」西島一夫・蔦谷 博著 学芸出版社公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 公共建築協会			建築施工の現場では、長年の経験や慣習を通して培われた技術に、新材料の登場・施工技術の進化や先端技術の応用などに加え、建築物自体が時代や社会の変化に応じて絶えず技術革新を迫られている。				
キーワード							
工事計画、施工管理、建設現場							